

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2021年4月)

1 ポイント

【内政】

- 6日、新型コロナウイルス感染症の予防接種を受ける公務員及び民間労働者に対し、最大4時間の有休(時間休)を付与する法案が承認。13日付で同法律第19947号が公布。
- 21日、ラカジェ・ポウ大統領は就任後初の連立他政党代表との会合を実施。
- 27日、アギーレ元副大統領死去。

【外交】

- 6日、ガルシア国防大臣は、ファラー米南方軍司令官を迎え会談を実施。
- 15日、ラカジェ・ポウ大統領はファン・ゴンサレス米国家安全保障会議(NSC)上級部長(西半球担当)及びジュリー・チャン米国務次官補代理(西半球担当)と会合を実施。
- 21日、ラカジェ・ポウ大統領は第27回イベロアメリカ・サミットにオンライン形式で出席。
- 26日、ブスティージョ外務大臣及びアルベレチェ経済財務大臣はオンラインで開催されたメルコスール加盟国大臣会合に出席し、対外共通関税(AEC)の見直しを含むメルコスール柔軟化に向けたウルグアイ政府の提案を正式に提出。
- 29日、メルコスール電子商取引協定にブスティージョ外務大臣が署名。
- 30日、ウルグアイ・フランス二国間協議が開催。

2 本文

【内政】

1 ラカジェ・ポウ大統領就任後初の連立他政党代表との会合

21日、ラカジェ・ポウ大統領は大統領就任後初めて連立与党を構成する全5政党の代表を招集し会合を実施した。同会合では、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの状況、政治情勢及び政府が議会に提出予定である、経済的に不安定な状況にある国民に対して収穫期の雇用を提供するための法案等について協議された。コロラド党及びカビルド・アビエルト党は数週間前から人の移動、感染者数及びICU入院患者数を減らすためより強力な措置を求めていたが、同会合後、出席者全員がラカジェ・ポウ大統領の戦略及び楽観的な見通しを支持した。また、連立与党の各代表は経済財務省、労働社会保障省、社会開発省、観光省、工業エネルギー鉱業省が20日に発表した一連の経済支援措置に同意した。

2 農牧水産省幹部2名の解任

中国向け食肉製品の表示に問題があるとして中国が9日に食肉処理会社BPU社の製品の輸入を停止した問題で、21日、ウリアルテ農牧水産大臣及びブスティージョ外務大臣は同停止措置について協議するため駐ウルグアイ中国大使館を訪問した。同日、農牧水産省の幹部2名の解任が発表された。22日、ウリアルテ農牧水産大臣は報道陣に対し、同決定において中国市場への配慮が優先された旨明らかにした。「ブスケダ」紙によると、中国市場に向けてウルグアイ側の対処を示す必要があり、選択肢はウリアルテ農牧水産大臣もしくは同省幹部2名の解任であったが、最終的にラカジェ・ポウ大統領が同幹部2名の解任を決定した。同解任は省内及び他の関係機関との間に多くの不満を残すことになった。

3 アギーレ元副大統領死去

27日、ゴンサロ・アギーレ元副大統領が81歳で死去した。同元副大統領は国民党に所属し、上院議員(1985年～1990年)やラカジェ政権時(1990年～1995年)には副大統領を務めた。パーキンソン病を患い2019年から入院しており、本年3月には新型コロナウイルス感染症に感染し、同感染症からは回復したものの、その後臓器不全に陥っていた。

4 新型コロナウイルス感染症に関する主な動き

(1) ワクチン関連

ア 4日、COVAXファシリティーの枠組みでウルグアイが購入したワクチンの一部であるアストラゼネカ製ワクチン4.8万回分が到着した。

イ 14日、ファイザー製ワクチン約8万回分が到着した(以降、毎週約8万回分が到着)。

ウ 17日、アストラゼネカ製ワクチンによる予防接種が開始された。

(2) 変異株

ア P1型変異株

28日、サリーナス厚生大臣は記者会見で、ブラジルP1型変異株によりウルグアイは感染の第1波に見舞われていると述べた。新型コロナウイルス変異株の監視のための組織間作業グループ(GTI)の最新の報告書によると、3月中旬時点ではP1型変異株の検出率は15%であったのに対し、4月17日から21日までに検査された563件の検体のうち、493件の検体(89%)でP1型変異株が検出された。また、P1型変異株は国内全19県で確認されており、うち8県(セロ・ラルゴ県、ドゥラスノ県、ラバジェハ県、リオ・ネグロ県、リベラ県、ソリアノ県、タクアレンボ県、トレインタ・イ・トレス県)では検体の全て(100%)が同変異株に該当した。

イ その他の変異株(ブラジルP2型、南アフリカ型、英国型)

ウイルス学者のモマトリオ医師によると、ウルグアイではこれまでにブラジルP2型をはじめP1型以外の変異株も検出されたが、科学者が最も懸念している南アフリカ型変異株はウルグアイでは検出されておらず、英国型変異株については数か月前に1例検出されたのみである。

(3) 国内制限措置

ア 7日、政府は3月23日に発表した一連の衛生措置の適用期間を4月30日まで延長する他、教育機関における出席型授業については少なくとも5月3日まで停止する旨を発表した。

イ 28日、政府は新型コロナウイルス感染症拡大が十分に抑えられていない現状に鑑み、一連の衛生措置の適用期間を5月16日まで延長する他、5月3日より教育機関における出席型授業を段階的に再開する旨を発表した。

(4) その他

ア 新型コロナウイルス感染症の予防接種に係る法律の公布

6日、議会は新型コロナウイルス感染症の予防接種を受ける公務員及び民間労働者に対し、最大4時間の有休(時間休)を付与する法案を承認した。右を受け政府は13日付で同法律第19947号を公布した。上院の審議では同法案による利益を「遡及的」とする条文が追加されたため、受診に要した時間が職場で控除されている既に予防接種を受診済みの労働者についても、予防接種証明書を提示することで当該時間の支払いを請求することが可能となった。同法案は、予防接種を奨励するため労働社会保障省及び厚生省により作成された。

イ 新型コロナウイルス調査対策特別委員会の設置

6日、ウルグアイにおけるパンデミックの追跡調査及び評価を目的とする特別委員会が上院に設置された。同特別委員会の活動期間は60日間で、与党議員7名、野党議員5名の計12名で構成される。

ウ 衛生措置の影響を受けた部門に対する支援措置の発表

20日、アルベレチェ経済財務大臣、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣、ミエレス労働社会保障大臣、バルトル社会開発大臣及びカルドソ観光大臣は記者会見を開催し、政府は新型コロナウイルス感染症対策による活動制限で最も大きな損害を受けている部門に対し雇用者負担金の6月までの免除、零細企業への貸付、失業保険の受給条件緩和、企業向け電力料金の一部優遇措置、社会支援措置などを通じて引き続き支援を行う意向で、2021年の支

援額合計は9億米ドルに上る見込みである旨発表した。

エ 中国から南米サッカー連盟へシノバック製ワクチン5万回分の寄贈

13日、ドミンゲス南米サッカー連盟(CONMEBOL)会長は、同連盟に対しシノバック製ワクチン5万回分が寄贈される旨発表し、ワクチン入手を仲介したラカジェ・ポウ大統領、デルガド大統領府長官、パウサ・スポーツ庁長官をはじめ、ウルグアイ政府の取り組みに感謝の意を表明した。

28日、CONMEBOLに寄贈されるシノバック製ワクチン5万回分がウルグアイに到着した。同ワクチンは連盟の国際試合再開に向けた選手及び従業員への予防接種実施を目的として各加盟国に配布された。

28日、ラカジェ・ポウ大統領は学校授業の段階的な再開を除き3月に講じられた衛生措置を維持する旨発表した記者会見後、当該ワクチン到着の枠組みで開催されたアサード会合に出席した。同会合にはラカジェ・ポウ大統領の他、デルガド大統領府長官、パウサ・スポーツ庁長官、フェラーリ同副長官の他、ウルグアイサッカー協会から7名、CONMEBOL幹部4名の計15名が参加した。ウルグアイ政府の許可を得て同日パラグアイから到着したドミンゲスCONMEBOL会長は隔離措置を免除されていた。ラカジェ・ポウ大統領は当該記者会見で国民に対し責任ある自由を呼びかけ20名規模のアサードを行わないよう要請しており、会見後の同会合出席に多くの批判の声が挙がった。

オ サウジアラビア政府からの支援

サウジアラビア政府は、サルマン国王人道援助救援センターを通じて、人工呼吸器、白衣、マスク、手袋等の総額170万米ドル相当の医療物資をウルグアイに提供した。4月24日、サウジアラビア政府からウルグアイに対し提供される人工呼吸器53台を搭載したエア・ヨーロッパ航空機がカラスコ空港に到着した。同国政府から提供される医療機器及び医療物資は全国の国家保健機構(ASSE)医療センターに配置される。

カ イスラエル政府からの支援

4月27日、新型コロナウイルス感染症患者のケアに関する経験、知識、治療技術、プロトコルをウルグアイの公立・私立の医療機関と共有する目的で、イスラエルSheba-Tel HaShomer国立病院の医療チームが4月27日にウルグアイに到着した。同チームは27日から5日間ウルグアイに滞在し、複数の病院を訪問した他、地方医療機関の集中治療医とオンライン会合を実施した。

また、イスラエルより約25万米ドル相当の最新医療機器が提供された。

【外交】

1 ファラー米南方軍司令官のウルグアイ訪問

6日、ガルシア国防大臣は、2018年の就任後初のウルグアイ訪問となるファラー米南方軍司令官を迎え会談を実施した。同会談後の記者会見で、ファラー司令官は両国の優れた協力関係を強調し、ウルグアイを「安全保障分野における重要なパートナー」と表現した。また、ガルシア国防大臣は米軍からボート3隻、装甲車1台、ヘリコプター1機を調達するための交渉が開始された旨明らかにした。また、ファラー司令官は滞在中、「ブスケダ」紙の取材に対し、両国の軍事関係を強化する米国の意向を示す一方、中国の5G通信技術の調達可能性について、中国は同技術を民間用と軍事用に区別していないとしてウルグアイに注意を喚起した。また、米国は他の技術の可能性について既にウルグアイ政府に通知している旨述べた。

2 米国代表団との会合

15日、ラカジェ・ポウ大統領はラニャガ内務大臣及びガルシア国防大臣と共にファン・ゴンサレス米大統領特別補佐官兼米国家安全保障会議(NSC)上級部長(西半球担当)及びジュリー・チャン米國務次官補代理(西半球担当)率いる米国代表団と会合を実施した。同米国

代表団は二国間及びグローバルな課題について検討する目的でウルグアイを訪問し、(1)ラカジェ・ポウ大統領、ガルシア国防大臣、ララニャガ内務大臣、ブスティージョ外務大臣との会談、(2)サベージ駐ウルグアイ米国臨時大使、アルベレチェ経済財務大臣、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣及びカルドソ観光大臣とのワーキングランチ、(3)市民社会団体との会合が実施された。

同会合後の記者会見で、ゴンサレスNSC上級部長は、麻薬密売及びテロに対する特定の協力分野における作業方針を作成することで合意し、米ワシントンで実施予定の次回会合で安全保障分野における具体的な進展が発表される予定であると述べた。ガルシア国防大臣は、バイデン米政権は政権発足直後から南米地域に対する関心を示しており、今次訪問は政治的・制度的観点から重要であると述べた。

3 イベロアメリカ・サミットへの出席

21日、ラカジェ・ポウ大統領はアンドラ公国で開催された第27回イベロアメリカ・サミットにオンライン形式で出席(ブスティージョ外務大臣同席)した。ラカジェ・ポウ大統領は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックによって引き起こされた世界的な変化に直面し、各国は自国民の保護に注力したが、右への対処には多国間での協力が必要であるとし、協力関係の深化を呼びかけた。また、ベネズエラは直ちに「民主主義への扉」を開ける必要があると述べた。

4 中国メディアによるラカジェ・ポウ大統領インタビュー

21日、ラカジェ・ポウ大統領は中国のテレビ番組CGTNによる新型コロナワクチン接種に関する英語でのインタビューを受け、中国からのワクチン提供に感謝し、同国との間での福祉分野における協力関係を重要視している旨発言した。

5 ウルグアイ政府によるメルコスール柔軟化に向けた提案の提出

26日、ブスティージョ外務大臣及びアルベレチェ経済財務大臣はオンラインで開催されたメルコスール加盟国大臣会合に出席し、対外共通関税(AEC)の見直しを含むメルコスール柔軟化に向けたウルグアイ政府の提案を正式に提出した。大臣会合後の記者会見にてブスティージョ外務大臣は、ウルグアイが20年間に亘りメルコスール柔軟化に関する協議実施を加盟国に要請してきた点を指摘し、今回ウルグアイがブラジルの支持を得て提出した提案にはここ数ヶ月間で実施されたラカジェ・ポウ大統領と各加盟国首脳との協議の結果が反映されており、今後各加盟国の技術チームによる精査が行われると説明した。また、今回提出した提案は「加盟各国が直面している現状を考慮したもので、メルコスール柔軟化は全加盟国に裨益する。各国間の相違を超え域外市場への参入という同じ望みを抱いている加盟国にとって大きな好機が訪れている」と説明した。

6 メルコスールの電子商取引協定への署名

29日、モンテビデオのメルコスール事務局にてメルコスール電子商取引協定への署名式が行われ、ウルグアイを代表しブスティージョ外務大臣が署名した。また、同署名式には加盟各国の常駐代表が出席した。外務省は、ウルグアイのメルコスール議長任期中に承認された同協定により、国境を越えた情報伝達の条件、個人情報保護、情報設備の配置、オンライン消費者保護、インターネットアクセス及び使用等が規制される他、メルコスール加盟国間での貿易交渉を通じて第三国に与えられる最恵待遇や、電子伝達への非課税が保証されるとしている。同署名式に出席したロカノバ・メルコスール・ウルグアイ常駐代表は、加盟国は関税の不適用を含め電子取引を区別しないことを約束していると説明した他、消費者の観点からも取引の安全性と透明性を提供する一歩となる旨強調し、同協定は輸出を目的とするICT分

野にも大きな影響を与える旨指摘した。

7 ウルグアイ・フランス二国間協議の実施

30日、ウルグアイ・フランス二国間協議がオンライン形式で開催され、アチェ外務次官及びドレ仏外務省中南米カリブ担当局長が議長を務め、ウルグアイからはエルゲ国防次官、バッジャーニ・パスツール協会会長、在仏ウルグアイ大使等が出席した。両代表団は二国間の主要議題や地域・多国間レベルでの様々な議題について協議し、両国民を繋ぐ深い歴史・社会文化的枠組みにおける優れた二国間関係に祝意を表した他、科学技術協力の強化についてモンテビデオのパスツール協会における活動を強調した。右に関し、ウルグアイは同協会の地域レベルでの活動を可能にするフランスからの支援に感謝の意を表明した。同会合では貿易、投資、環境問題、教育、メルコスール・EU・FTAをはじめとする地域協定など幅広い議題について協議され、近い将来、両首脳相互訪問を実現し定期的な協議実施を可能にするためのメカニズムを構築する意向が示された。

【要人往来】

- 往訪
- なし
- 来訪
- 6～7日 ファラー米南方軍司令官
- 14～15日 ゴンサレスNSC上級部長(西半球担当)